

第30期 決算公告

1. 貸借対照表
2. 損益計算書
3. 個別注記表

2025年 4月 1日から
2026年 3月 31日まで

OTNet株式会社

貸借対照表

OTNet株式会社

[2026年 3月 31日現在]

(単位:百万円)

(資産の部)		(負債の部)	
科目	金額	科目	金額
流動資産	5,952	流動負債	1,287
現金及び預金	371	買掛金	70
売掛金	1,051	未払金	645
貯蔵品	172	未払費用	44
関係会社短期貸付金	4,216	未払法人税等	236
前払費用	111	リース債務	1
その他	34	前受金	133
貸倒引当金	△5	賞与引当金	86
		その他	70
固定資産	8,764	固定負債	778
有形固定資産	7,981	リース債務	0
建物	194	長期前受金	336
構築物	4,459	退職給付引当金	441
機械及び装置	2,990		
工具、器具及び備品	67		
リース資産	2		
建設仮勘定	267	負債合計	2,065
無形固定資産	111	(純資産の部)	
施設利用権	13	株主資本	12,650
その他	98	資本金	1,184
投資その他の資産	671	資本剰余金	484
投資有価証券	199	資本準備金	484
長期前払費用	119	利益剰余金	10,981
繰延税金資産	349	利益準備金	8
破産更生債権等	0	その他利益剰余金	10,973
その他	1	繰越利益剰余金	10,973
貸倒引当金	△0		
		純資産合計	12,650
資産合計	14,716	負債・純資産合計	14,716

損益計算書

OTNet株式会社

〔 自 2025年 4月 1日
至 2026年 3月31日 〕

(単位:百万円)

科 目	金 額	
売 上 高		8,353
売 上 原 価		5,898
売 上 総 利 益		2,454
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		873
営 業 利 益		1,581
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 割 引 料	29	
受 取 配 当 金	1	
受 取 保 険 金	0	
雑 収 入	6	38
営 業 外 費 用		
雑 支 出	0	0
経 常 利 益		1,619
税 引 前 当 期 純 利 益		1,619
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	421	
法 人 税 等 調 整 額	△ 29	392
当 期 純 利 益		1,227

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

・市場価格のない株式等以外のもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。

・市場価格のない株式等

総平均法による原価法によっております。

② 棚卸資産(貯蔵品)の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)によっております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産及び無形固定資産(リース資産を除く)

機械及び装置 定率法

機械及び装置以外の有形固定資産及び無形固定資産 定額法

主な耐用年数は以下のとおりです。

建 物 6年～45年

構 築 物 2年～27年

機 械 及 び 装 置 2年～15年

工具、器具及び備品 3年～27年

海 底 線 使 用 権 19年

ソ フ ト ウ ェ ア 社内における利用可能期間(5年)

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金は、売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金は、従業員の賞与支給に備えるため、支給対象期間に対応する支給見込額を計上しております。

③ 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務見込額に基づき計上しております。

(4) 収益及び費用の計上基準

当社と顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)は以下のとおりであります。

当社サービスは、主に電気通信事業の光ファイバ回線提供と、附帯事業の機器販売等から構成されております。電気通信事業は主に法人ユーザへ光ファイバ回線を提供するデータ伝送サービス、コンシューマユーザへ光ファイバ回線を提供するひかりゆいまーるサービス、FTTH事業者へ光ファイバ回線を提供するFTTH卸サービスと、通信事業者の無線基地局へ光ファイバ回線を提供する業務受託サービスによって構成されております。いずれも月額通信料及び回線提供に伴う初期工事費用収入からなります。このうち、初期工事費用収入を除いた収入については、履行義務が充足されるサービス提供時に収益計上しております。また、初期工事費用収入の対価は契約時に前受けする形で受領しておりますが、残存率を基礎とした見積平均契約期間にわたり、収益を認識しております。附帯事業は、機器販売と工事契約で構成されております。機器販売については、顧客との販売契約に基づいて商品を引き渡す履行義務を負っております。当該履行義務は、商品を引き渡す一時点において、顧客が当該商品に対する支配を獲得して充足されると判断し、引渡時点で収益を認識しております。工事契約については、一定の期間にわたり履行義務が充足されると判断し、履行義務の充足に係る進捗度に基づき収益を認識しております。進捗度の測定は、各報告期間の期末日までに発生した工事原価が、予想される工事原価の総額に占める割合に基づいて行っております。なお、これらの取引の対価は、請求日から概ね翌月までに受領しております。

(5) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税抜方式によっております。

2. 会計方針の変更に関する注記

該当事項はありません。

3. 表示方法の変更に関する注記

該当事項はありません。

4. 貸借対照表等に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額

建	物	407	百万円
構	築	13,736	百万円
機	械	7,645	百万円
工	具	243	百万円
リ	ー	5	百万円
ス	資		
資	産		
	計	22,037	百万円

(2) 売掛金のうち契約資産の金額

契	約	資	産	10	百万円
---	---	---	---	----	-----

(3) 前受金のうち契約負債の金額

契	約	負	債	460	百万円
---	---	---	---	-----	-----

(4) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短	期	金	銭	債	権	5,068	百万円
短	期	金	銭	債	務	109	百万円
長	期	金	銭	債	権	0	百万円

5. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

イ. 営業取引

売	上	高	5,691	百万円							
売	上	原	価	731	百万円						
販	売	費	及	び	一	般	管	理	費	211	百万円

ロ. 営業取引以外の取引

営	業	外	収	益	29	百万円
営	業	外	費	用	-	百万円

6. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

当事業年度の発行済株式数の種類及び総数

普通株式 31,936 株

(2) 配当に関する事項

① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の 総額(百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年6月6日 定時株主総会	普通株式	47	1,500	2025年3月31日	2025年6月10日

② 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

2026年6月5日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案することを予定しております。

1. 配当金の総額 95百万円
2. 1株当たり配当額 3,000円
3. 基準日 2026年3月31日
4. 効力発生日 2026年6月10日

なお、配当原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

7. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生の主な原因は退職給付引当金、賞与引当金、貯蔵品、前受金等です。

8. リースにより使用する固定資産に関する注記

ファイナンス・リース取引

該当事項はありません。

9. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

①金融商品に対する取組方針

当社は、主に電気通信事業を行うための設備投資計画等に照らして、必要な資金を営業活動による現金収入により調達しており借入金はございません。一時的な余資は親会社である沖縄セルラー電話株式会社に対する短期的な貸付金に限定して運用しております。

②金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金及び未収入金並びに関係会社短期貸付金は、顧客及び取引先の信用リスクにさらされております。当該リスクに関しては、当社の与信管理基準に則り、相手先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を每期把握する体制としております。

営業債務である買掛金や未払金、未払法人税等は、そのほとんどが1年以内の支払期日です。

リース債務は主に設備投資に係る資金調達を目的とした長期の取引であり、そのほとんどが固定金利で取引を実施しております。

また、営業債務などの流動負債は、その決済時において流動性リスクにさらされますが、当社では、適時に資金繰り計画を作成、更新するなどの方法により管理しております。

③金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2026年3月31日(当期の決算日)における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等(貸借対照表計上額199百万円)は、下表には含めておりません。また、現金及び預金、売掛金、関係会社貸付金、買掛金、未払金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(単位:百万円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
A. 破産更生債権等	0		
貸倒引当金(※)	△ 0		
	-	-	-
B. リース債務	1	1	0

(※)破産更生債権等に対して個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価:同一の資産又は負債の活発な市場における(無調整の)相場価格により算定した時価

レベル2の時価:レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価:重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

破産更生債権等

破産更生債権等については、個別に回収可能性を検討して回収不能見込額を貸倒引当金に計上しているため、その時価は、破産更生債権等から貸倒引当金を控除する方法により算定しており、レベル3の時価に分類しております。

リース債務

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

10. 関連当事者との取引に関する注記

親会社及び法人主要株主等

(単位:百万円、%、名)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容	議決権の所有割合(被所有割合)	関係内容		取引の内容	取引額	科目	期末残高
						役員の兼任等	事実上の関係				
親会社	沖縄セルラー電話株式会社	沖縄県那覇市	1,414	電気通信事業	直接(77.52)	2	資金の貸付、回線提供等	資金の貸付(注1)	4,332	関係会社短期貸付金	4,216
								貸付金の回収(注1)	3,523		
								受取利息(注1)	28		
								売上	4,512	売掛金	
親会社	KDDI株式会社	東京都港区	141,852	電気通信事業	間接(77.52)	-	回線提供、工事の受注等	売上	1,085	売掛金	384

(注1) 資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。なお、担保は受け入れておりません。

(注2) 一般取引条件を参考にしております。

(注3) 取引金額には消費税等は含めておりません。期末残高には、消費税等を含めております。

11. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 396,116円19銭
(2) 1株当たり当期純利益 38,430円28銭

12. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

13. 収益認識に関する注記

(1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、電気通信事業を営む単一セグメントであり、主要な顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	当事業年度
電気通信事業収益	8,003
附帯事業収益	349
合計	8,353

(注) 電気通信事業営業収益は、データ伝送、ひかりゆいまーる、FTTH卸、業務受託サービスが含まれており、附帯事業は、機器販売と工事契約で構成されております。

(2) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記(4)(収益及び費用の計上基準)」に記載した内容と同一であります。

(3) 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から翌事業年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

① 顧客との契約から生じた債権及び契約負債の残高等

顧客との契約から生じた債権及び契約負債の内容は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	当事業年度
顧客との契約から生じた債権	1,041
契約資産(期首残高)	11
契約資産(期末残高)	10
契約負債(期首残高)	403
契約負債(期末残高)	460

契約資産は、工事契約に関連して期末日時点で履行義務を充足し収益を認識しているものの、未請求の対価10百万円に対する当社の権利に関するものであります。当該対価に対する当社の権利が無条件になった時点で顧客との契約から生じた債権に振り替えられます。

契約負債は、データ伝送、ひかりゆいまーる、FTTH卸、業務受託サービスにおける回線提供初期工事収入であります。契約負債の増減は、主として前受金の受取り(契約負債の増加)と、収益認識(同、減少)により生じたものであります。当事業年度に認識された収益のうち、期首時点の契約負債残高に含まれていた金額は、104百万円であります。

② 残存履行義務に配分した取引価格

当社では、残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって実務上の簡便法を適用し、当初に予想される契約期間が1年以内の契約について注記の対象に含めておりません。

残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	当事業年度
1年以内	126
1年超2年以内	113
2年超3年以内	92
3年超	128
合計	460

14. その他の注記

(金額の表示単位の変更)

当事業年度より金額の表示単位を千円単位から百万円単位に変更しております。